

17:28 兄のエリアブは、ダビデが人々と話しているのを聞いた。エリアブはダビデに怒りを燃やして言った。「いったい、おまえは、なぜやって来たのか。荒野にいるあのわずかな羊を、だれに預けて来たのか。私には、おまえのうぬぼれと心にある悪が分かっている。戦いを見にやって来たのではないのか。」

17:29 ダビデは言った。「私が今、何をしたというのですか。一言、話しただけではありませんか。」

17:30 ダビデは兄から別の人の方に向き直り、同じことを尋ねた。すると、兵たちは先ほどと同じ返事をした。

17:31 ダビデが言ったことは人々の耳に入り、サウルに告げられた。それで、サウルはダビデを呼び寄せた。

17:32 ダビデはサウルに言った。「あの男のために、だれも気を落としてはなりません。このしもべが行って、あのペリシテ人と戦います。」

17:33 サウルはダビデに言った。「おまえは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。おまえはまだ若いし、あれは若いときから戦士だったのだから。」

17:34 ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊の群れを飼ってきました。獅子や熊が来て、群れの羊を取って行くと、

17:35 しもべはその後を追って出て、それを打ち殺し、その口から羊を救い出します。それがしもべに襲いかかるようなときは、そのひげをつかみ、それを打って殺してしまします。」

17:36 しもべは、獅子でも熊でも打ち殺しま

した。この無割礼のペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をそしたのですから。」

17:37 そして、ダビデは言った。「獅子や熊の爪からしもべを救い出してください」

【主】は、このペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。【主】がおまえとともにいてくださるように。」

17:38 サウルはダビデに自分のよろいかぶとを着けさせた。頭に青銅のかぶとをかぶらせて、それから身によろいを着けさせたのである。

17:39 ダビデは、そのよろいの上にサウルの剣を帯びた。慣れていなかったので、ためしに歩いてみた。ダビデはサウルに言った。「これらのものを着けては、歩くこともできません。慣れていませんから。」ダビデはそれを脱いだ。

17:40 そして自分の杖を手に取り、川から五つの滑らかな石を選んで、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にし、そのペリシテ人に近づいて行った。

ダビデが勇ましいことを言うのを聞いて、兄は諫めました。弟が心配であったのかもしれませんが。ダビデは誰もが自分を認めないことを知っていましたが、怯（ひる）みませんでした。

自分は勝てると思っていたのですが、その根拠は「生ける神の陣をなぶったのですから。」という神のための義憤と信仰です。主のために熱心な思いを持って、熱い心を内に持ち続けたいものです。そしてそれを言葉だけでなく、勇気ある行動で表しましょう。

またダビデの根拠は自分の仕事です。兄弟の間では一番期待されていなかったようですが、それで

も自分に与えられた役割に全力を傾けていました。それが石投げの技術を生み、さらには思いがけない重大なときに用いられたのです。小さなことにも主からの役割と感謝して、一生懸命やりましょう。

主がそのようなダビデを選ばれたことに心を留め、信仰の模範としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

